

折々の記 No63 : ハニートラップ！

本夕、孫二人を引き連れて、東京ミレニアムを見に行った。彼女等が大いに喜んでくれ、言いだしっぺのジジとしてはほっとしたと言うべきか。



新聞報道及び週刊誌によれば（最も週刊誌のスクープらしいけれども・・）、2004年5月6日午前4時に、上海総領事館に勤務する電信官たる領事が縊死をしたという。その原因が、伝えられる所によれば、単身赴任に付け込まれて女性といつしか深い仲になり、それをネタに国家機密を要求され、それに耐え切れなくなったの自裁だと言うのである。

週刊誌のスクープにより顕在化した本事案に対して、日本国政府が抗議したことに対して、中国が猛反発をしているようだ。
本事案に対する幾つかの所見を述べたい。

① 情報戦に甘い日本人！

今回の彼の国の採った手段は「ハニートラップ」(honey trap)と言われるものであり、古今東西、情報戦の常套手段である。人間の弱みに付け込んで、逃げるに逃げられぬ状況に陥れて己の欲するものを得たという歴史上の事例は枚挙に暇がないはずである。日本においてもかつてはそうだった筈だ。然るにいつの間にかその様な世界は自分や日本には無縁、関係のない世界と思い込んできた節がある。

② 外務省の隠蔽体質？

一年半前の事案であるが、それが外務大臣止まりで内々に処理されていたことに強い憤りを感じる。今回週刊誌が『激震スクープ』として取り上げなかったら、臭いものに蓋とばかりになってしまった可能性が高い。外務省レベルで形式的に抗議はしたとしても、総理や官房長官に報告がなされない。このことは、隠蔽体質そのものと言われても仕方あるまい。しかも川口外相の後任外相に引き継がれていないと言う。事なかれ主義そのものではないか。

中国外務省がこの問題は既に決着済みとのたもって居るが、これこそ中国外務省との馴れ合い体質、事なかれ主義の露呈したものである。

③ 情報戦への対応策を強化すべし！

この様な卑劣な手段を用いるべきではないなどと綺麗ごとで済む話ではない。金と女でこれらと思う対象をがんじがらめにして、最後は脅迫に訴えるのは世界の常識である。世界の甘チャン日本人も覚醒しなければならない。カウンターインテリジェンスを強化すべきである。

④ 彼の国の手先を排除すべし！

今回の事案は氷山の一角である。電信官であった領事は、耐え切れなくなって自裁したが、まだ最後の良心が残っていたのであろう。機密漏洩は辛うじて免れ得た。然しながら、彼等に完璧に取り込まれた多くの日本人が多数居ると言う事を忘れてはならない。何食わぬ顔をして、売国奴に成り下がった輩が居る筈だ。何としてもそのような人身を炙り出し、排除せねばならない。日本を代表する外交官や大物政治家も、更には経済界にもその様な輩が居るのであろう。さる首相にもその様は噂があったが・・。

⑤ 今後の対応！

遺族の意向もあってこれまで公表しなかったと言うことだが、このような国家にとっての重大な問題を、その様な理由で明らかにしないというのは如何なものか。

目には目の対応も考えるべきだ。カウンターばかりではなくアクティブに仕掛けることも考えるべきではないか。

中国に対しても断固とした対応すべきだ。と言っても所詮彼が認める訳はないが、言うべきはきちんと言うべきだ。

本来であれば、このような事案が顕在化表面化することは殆どない。熾烈な水面下の戦いは人に知られることもなく、闇に葬られる。しかし、一旦表面化したら、これを逆手にとって主導権をとって彼の国を追い込むべきだ。それ位のことをやって貰いたいものだ。

(参考：週刊文春新年特大号、ニュース)